

2015年11月9日 全5頁

12月の利上げ開始に向け一歩前進

2015年10月米雇用統計：雇用者数は大きく上振れ、賃金上昇も加速

ニューヨークリサーチセンター
エコノミスト 橋本 政彦

[要約]

- 10月の非農業部門雇用者数は前月から+27.1万人の増加と、市場予想を大きく上回るポジティブな結果であった。2014年12月以来の高い伸びとなり、このところ高まっていた景気減速懸念を払拭する力強い改善であった。
- 10月の失業率は5.0%と前月から▲0.1%pt低下した。失業者数は前月差▲0.7万人と、小幅な減少に留まったが、非労働力人口が同▲9.7万人減少、就業者数は同+32.0万人増加しており、非労働力人口の就業が進んだことで失業率が低下した。
- 民間部門の平均時給は前月比+0.4%となり、市場予想を上回った。また、前年比で見た時給変化率は+2.5%と、2009年7月以来の高い伸びとなった。今後の賃金上昇加速を期待させる結果であったと言える。
- 今回の雇用統計は、12月のFOMCで利上げを開始するのに十分な結果と言える。賃金上昇の加速が見られたことに加えて、ヘッドラインが市場予想から大きく上振れし、12月利上げ開始に対する市場の織り込みが進んだことも好材料である。12月利上げ開始という従来の見方に変更はない。

非農業部門雇用者数は市場予想から大幅に上振れ

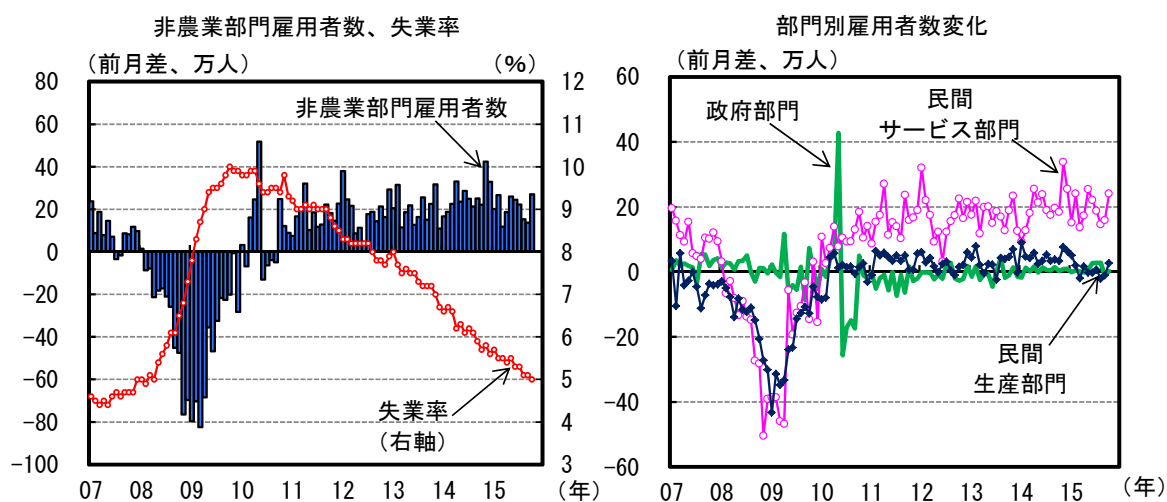
10月の非農業部門雇用者数は前月から+27.1万人の増加と、市場予想（Bloomberg 調査：+18.5万人）を大きく上回るポジティブな結果であった。8、9月の雇用者数の伸びは2ヵ月連続で20万人を大きく下回っていたが、10月が2014年12月以来の高い伸びになったことで、3ヵ月移動平均値も9月の+17.1万人から+18.7万人まで持ち直した。このところ高まっていた景気減速懸念を払拭する力強い改善であったと言えよう。なお、過去分については8月（前月差+13.6万人→同+15.3万人）が上方修正される一方で、9月（同+14.2万人→同+13.7万人）はわずかに下方修正され、8月、9月の合計では+1.2万人の上方修正となった。

サービス部門が増加幅拡大、製造業も下げ止まり

雇用者数の増減を部門別に見ると、民間部門は前月差+26.8万人となった。このところ足を引っ張っていた生産部門が同+2.7万人と、3ヵ月ぶりの増加に転じたことに加えて、サービス部門は同+24.1万人となり、前月から増加幅が大きく拡大した。前月から雇用者数が増加している業種の割合を示す雇用DIも61.8%となり、最近の低下傾向から一転して大幅に上昇しており、幅広い業種での持ち直しを示す結果となった。

生産部門のうち、製造業の雇用者数は前月から横ばいとなり、3ヵ月ぶりにマイナス圏を脱した。食品（前月差+0.13万人）、印刷（同+0.11万人）、プラスチック・ゴム製品（同+0.07万人）などが増加に転じ、非耐久財関連業種が3ヵ月ぶりの増加に転じたことが押し上げ要因となった。他方で耐久財関連業種については、金属製品（同▲0.49万人）、機械（同▲0.43万人）、一次金属（同▲0.15万人）で減少傾向が続いたことが下押し要因となり、4ヵ月連続で減少した。耐久財関連業種の減少傾向が続く中でも堅調を維持してきた輸送用機器についても、10月は同+0.03万人と概ね横ばいに留まり、増勢が鈍化した。

図表1：非農業部門雇用者数と失業率、部門別雇用者数変化



(出所) BLS、Haver Analyticsより大和総研作成

製造業以外の生産部門では、鉱業・林業は前月差▲0.4万人となった。原油価格低迷により10ヵ月連続の減少と雇用削減の動きが続いているが、減少幅は前月から縮小している。一方、建設業の雇用者数は同+3.1万人増加した。増加基調が続く中、2015年2月以来の増加幅となり、生産部門全体を押し上げた。

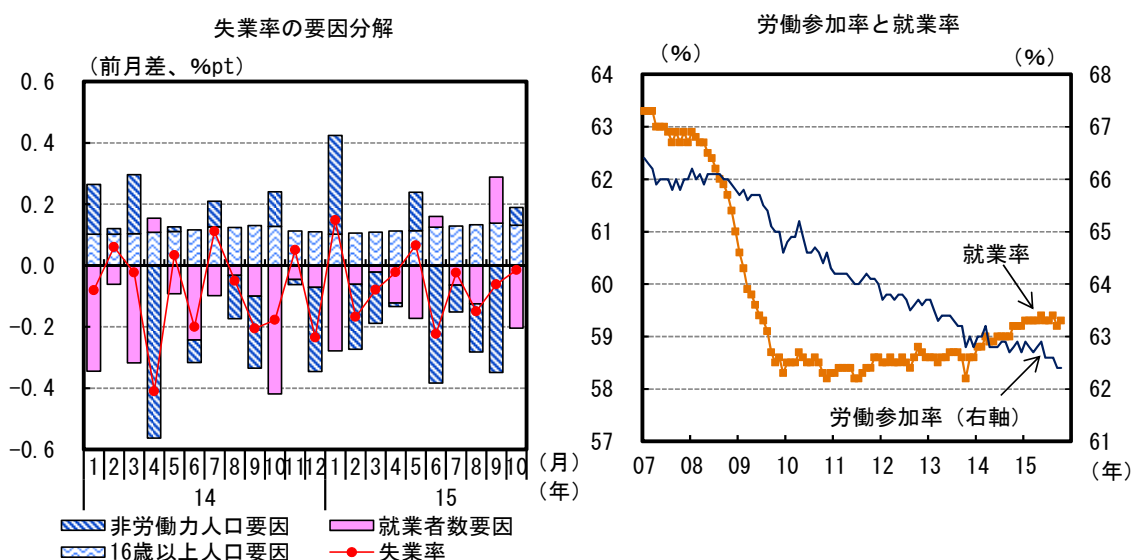
サービス部門の雇用者数は前月差+24.1万人と、このところの減速から急速に持ち直した。とりわけ小売（同+4.38万人）、専門・企業向けサービス（同+7.8万人）の増加幅が大きく拡大したことが全体を押し上げた。また、ヘルスケア関連（同+5.67万人）の増加幅拡大により、教育・医療（同+5.7万人）でも増勢が加速した。他方で、情報（同▲0.1万人）が2ヵ月ぶりに減少したほか、運輸（同▲0.21万人）は9ヵ月ぶりの減少となった。

政府部門の雇用者数は前月差+0.3万人と、2ヵ月ぶりに増加した。連邦政府（同▲0.2万人）では減少したが、州政府（同+0.5万人）の増加が押し上げ要因となった。

失業率も小幅に改善

10月の失業率は5.0%と前月から▲0.1%pt低下し、市場予想通りの結果であった¹。内訳を見ると、失業者数は前月差▲0.7万人と、ごく小幅ながら5ヵ月連続で減少した。非労働力人口は同▲9.7万人減少し、失業率を押し上げる要因となったが、他方で就業者数が同+32.0万人と大幅に増加しており、就業が進んだことで失業率は前月から低下した。就業率は59.3%と前月から0.1%pt上昇し、労働参加率は62.4%と前月から横ばいであった。

図表2：失業率の要因分解、労働参加率と就業率



¹ なお、失業率を小数点第3位まで計算すると、9月は5.051%、10月は5.036%となり、小数点第2位で四捨五入した公表値に比べて低下幅は非常に小幅となる。

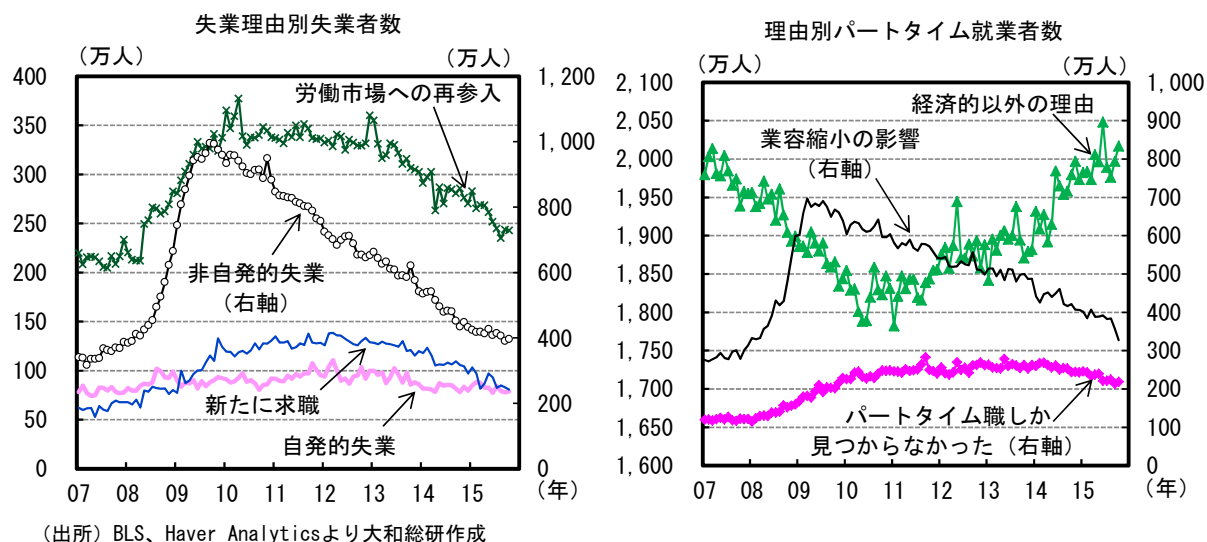
労働市場の質は一進一退

失業者数の内訳を失業理由別に見ると、「労働市場への再参入」（前月差▲0.6万人）、および「新たに求職」（同▲2.4万人）の減少が全体を押し下げた。一方で、会社都合による「非自発的失業」は同+5.7万人増加した。「非自発的失業」は8月、9月の減少に比べて小幅な増加に留まっていることから、均して見れば減少基調が続いているが、単月では良い内容ではない。より良い仕事を求めた失業者を含む「自発的失業」（同+0.9万人）は3ヵ月ぶりの増加に転じた。

失業期間別では、前月に大幅に増加した5週未満の失業者数が前月差▲3.7万人減少したものの、5週以上の失業者数は同+13.5万人増加、うち27週以上の長期失業者数は同+3.8万人増加した。この結果、失業者に占める長期失業者の比率は26.8%と前月から+0.2%pt上昇し、失業期間の平均値は28.0週となり前月から長期化した。ただし、5週以上の失業者の中でも、比較的失業期間が短い5週から14週の失業者が大幅に増加したため、失業期間の中央値は11.2週と前月からわずかに短くなっている。

経済的理由でパートタイム就業者となっている人の数は、前月差▲26.9万人減少し、576.7万人となった。「パートタイム職しか見つからなかった」ことによるパートタイム就業者は同+4.8万人増加したが、「業容縮小の影響」によるパートタイム就業者が同▲29.0万人と大幅に減少した。経済的理由によるパートタイム就業者が前月から減少した結果、広義の失業率（U-6）は9.8%と、前月から▲0.2%pt低下した。

図表3：失業理由別失業者数、理由別パートタイム就業者数



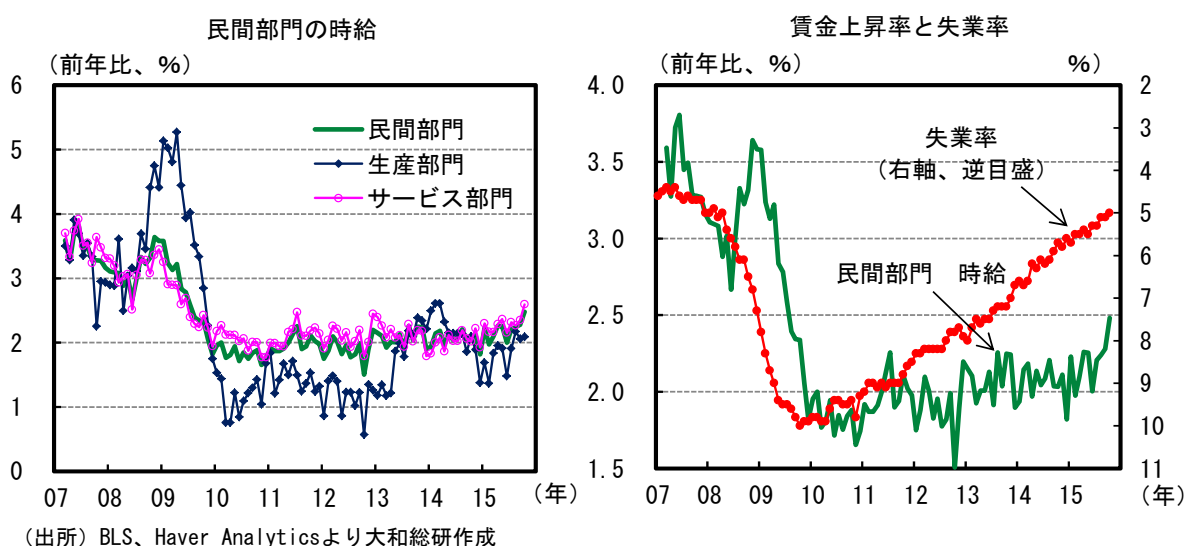
時給は2009年7月以来の伸び

失業者や就業者の内訳に関しては一進一退の内容となったが、賃金については改善が見られた。民間部門の平均時給は前月比+0.4%となり、市場予想（Bloomberg調査：+0.2%）を上回った。また、前年比で見た時給変化率は+2.5%と、2009年7月以来の高い伸びとなった。失業率の低下傾向が続く中でも、これまで賃金は伸び悩んできたが、漸くここ数年続いてきた前年

比+1%後半～2%前半のレンジから上抜ける形となった。今後の賃金上昇加速を期待させる結果であったと言える。

賃金動向を業種別に見ると、生産部門は前月比+0.3%と2ヵ月ぶりの増加に転じた。製造業については、前月と同程度の伸びとなったが、建設業の時給が同+0.7%と増加に転じたことが押し上げに寄与した。サービス部門の時給は同+0.4%と上昇幅が前月から拡大した。前月に低下していた、卸売、公益、レジャー・娯楽が軒並み増加に転じたことに加えて、運輸、情報などで上昇幅の拡大が見られた。

図表 4：民間部門の時給、賃金上昇率と失業率



12月の利上げ開始に向け一歩前進

10月の雇用統計では、ヘッドラインである非農業部門雇用者数が大きく上振れしたことで、9月分の雇用統計以降高まっていた景気減速に対する懸念を払拭する結果となった。また、これまで伸び悩んできた賃金に加速の兆しが見られるなど、ポジティブな内容であった。

雇用市場は、先行きについても改善基調が続くとみられる。企業部門では、製造業の生産や景況感は悪化しているが、非製造業は堅調を維持しており、労働需要は依然旺盛である。労働市場の中心はあくまでサービス部門を中心とした非製造業であり、製造業の減速による影響は限定的であるとみられる。他方、労働需給が引き締まる中で、とりわけハイスキル労働者などでは労働力不足が顕在化し始めており、企業と労働者のミスマッチによる供給要因が雇用者数の伸びを抑制する可能性には留意が必要であろう。

今回の雇用統計は、12月のFOMC（連邦公開市場委員会）で利上げを開始するのに十分な結果と言える。賃金上昇の加速が見られたことに加えて、ヘッドラインが市場予想から大きく上振れし、12月利上げ開始に対する市場の織り込みが進んだことも好材料である。12月のFOMCまでに、もう一度雇用統計が公表されるため、その結果を十分に見極める必要があるものの、12月利上げ開始という従来の見方に変更はない。